

國學院大學学術情報リポジトリ

多義動詞「出る」の意味分析： 日本語学習者の学びやすさのために

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国学院大学日本語教育研究会 公開日: 2025-07-02 キーワード (Ja): 多義動詞, 「出る」, 意味分析, プロトタイプの意味, 意味拡張, コロケーション キーワード (En): 作成者: 鮑, 安娜日 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001736

多義動詞「出る」の意味分析

—日本語学習者の学びやすさのために—

鮑 安娜日

【キーワード】 多義動詞、「出る」、意味分析、プロトタイプの意味、意味拡張、コロケーション

1. はじめに

「出る」は基本動詞の一つで、「部屋から出る」「大学を出る」「日が出る」「涙が出る」など様々な用法がある。多様な意味を持つ多義語である。

日本語のこうした多義動詞を学習者が学習する場合、現行の辞典類によるだけでは、学習しにくい面がある。例えば、語義が古い順から記載されていたり、例文も日本語母語話者にふさわしいものであったりして、学習者の理解や運用に十分供するものとはいえない。

そこで、本研究では、学習者にとって、多義語の各意味の理解が深まり、運用力が高まることをめざして、多義動詞「出る」を分析する。分析にあたっては、靱山(2001:30)が多義語分析の課題として提出した、

- (1) 複数の意味の認定
 - (2) プロトタイプの意味の認定
 - (3) 複数の意味の相互関係の明示
 - (4) 複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明
- のうち、(1) (2) (3)を中心に検討する。

2. 先行研究

「出る」の先行研究には、森山(2012)と国立国語研究所(2022 更新版)がある。

森山(2012)では、「出る」の意味を、主なものとして17、そのうちいくつかの意味から派生したものとして11、計28を立てて分析している。基本義を「内から外に移動する」とし、そこからの他の意味への拡張をネットワーク図で示している。各意味を絵で示していて、学習者にとってはわかりやすいが、分類の項目が多く、学習者にとって相互の関連がつかみにくい。関連性がつかめるように、同様の働きのをまとめるなどの改善が必要なのではないかと思われる。

国立国語研究所(2022 更新版)では「出る」を全部で55の意味に分けて分析している。基本義を

「外への移動」：人や動物や乗り物が空間・領域の中・内から外へ移動する。」とし、そこからの他の意味への拡張をネットワーク図で示している。各意味のコロケーションと誤用例を示していて、学習者にも教授者にも役に立つと思うが、55 に分けているのが細かすぎて、学習者には全体像を捉えてその中で適切に理解するのが難しい。

そこで、本研究では、学習者にとって、個々の用法も、用法間の関連や全体像の中での位置も理解しやすいものになるように、ということを第一義的に考えた分析をめざしたい。

3. 本研究の「出る」の意味分析の概要・方法

本研究では、3 種の国語辞典『新明解国語辞典』『岩波国語辞典』『明鏡国語辞典』に掲載された「出る」の合計 120 の例（同じ例文は重複して数えない）を得た上で、作例を追加し、合計 128 の例を以下(1)～(5)の手順で分析した。

- (1) 128 の例文を、類似したものどうしをまとめ、いくつかのグループに分ける。
- (2) プロトタイプの意味の認定については、先行研究が指摘した「出る」の基本義を「内から外に移動する」のようなものと見るという見方に従い、128 例について、プロトタイプの意味で使われているものを選定し、残りは拡張された意味と見る、という方法を採用。
- (3) 「出る」の拡張された意味については、128 例のうちプロトタイプの意味以外の各グループの意味をプロトタイプの意味と比較し、類似点と相違点を認定する。
- (4) 各意味のコロケーションを掲げる。
- (5) 上で認定した各意味の関連性を図で示す。

4. 「出る」の意味分析

4-1 「出る」のプロトタイプの意味

先行研究と辞書では「出る」の基本義を「内から外に移動する」のようなものと見ている。本研究でもこれをもとに、128 の例からまずこのような例を拾い、プロトタイプの意味を抽出した。

本研究では「出る」のプロトタイプの意味の認定にあたって、次の 1), 2) を設定した。

- 1) 一定の領域があつて、その中と外がはっきり分かれている。
- 2) 人や動物・物が、空間・領域の中・内から外へ移動する。

この考え方によって、128 の例文のうち次の (1) ～ (13) をプロトタイプの意味と認定した。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| (1) 部屋から一歩も外へ出ない(新明解) | (2) 改札口を出て商店街に向かう(明鏡) |
| (3) 部屋から出る(明鏡) | (4) 風呂から出る(新明解) |
| (5) 蛇口から温水が出る(明鏡) | (6) 連絡船は八時に港を出る(明鏡) |

- (7) 家を出る(岩波) [6時に家を出る]¹ (8) 大学を出る(岩波) [5時に大学を出る]
 (9) 会社を出る(新明解) [会社を出て帰路につく] (10) 庭に出る(岩波)
 (11) 裏口から通りに出る(明鏡) (12) 汽車が出て行く(岩波)
 (13) 十時に船が出る(新明解)

(1)～(13)の各例は、どれも上記1)と2)を満たす。例(1)(2)のように出発点と到着点がかかれているケースがあれば、例(3)～(9)のように出発点だけが書かれているケースもある。また、例(10)(11)のように到着点だけが示されているケースもある。さらに、例(12)(13)のように移動する主体が示されているケースもある。

プロトタイプの意味を、下記に意味<0>として記述しておく。

意味<0>:

区切られた空間・領域の中・内から外へ移動する。

意味<0>のコロケーション

- ・「 を(から)出る」の に入るのは、<場所>(起点): 部屋、家、教室、学校、大学、会社、会議室、建物、改札口、風呂、トンネル、港など
- ・「 に出る」の に入るのは、<場所>(到着点): 庭、通りなど
- ・「 が出る」の に入るのは、<移動する主体>: 人、水、船、汽車、車、電車など

4-2 「出る」の拡張された意味

本節では「出る」の拡張された意味の記述を行う。

4-2-1 意味<1>

- (14) この語は中国語から出ている(岩波) (15) このことばは聖書から出ている(作例)
 (16) この行事は昔の風習から出ている(作例)

これは出発点、特に起源を表すケースである。中国語から日本語へという方向の移動を表すという点では、意味<0>と共通しているので、意味<0>の拡張とし、意味<1>と示す。

意味<1>:

起源を示すことが趣旨。

意味<0>と意味<1>の共通点: どちらも外へという方向の移動。

¹ 「家を出る」には、「6時に家を出る」のような、家を起点として移動(外出)する用法(本稿の意味<0>)と、「大学に進学して、一人暮らしをするために家を出た」のような用法(本稿ではこれを後述の意味<1>)とし、その項で(19)として掲げる)がある。この両者を区別するために例文を添えた(例文は筆者による)。なお、この例については、『岩波』では前者の用法として掲げている。(7)(8)の「大学を出る」「会社を出る」にも同様の2用法があるが、この項では、意味<0>に該当する例文を添えておく。

意味<0>と意味<1>の相違点：意味<0>は、物理的な移動。意味<1>は抽象的な移動を指す。

意味<1>のコロケーション

・「 から出る」の に入るのは、<起源>：中国語、聖書、昔の風習など

4-2-2 意味<2>

(17) 大学を出る(岩波) [大学を出て結婚する²]

(18) 会社を出る(新明解) [会社を出て起業する³]

(19) 家を出る(岩波) [進学して一人暮らしをするため家を出る]

(20) 故郷を出る(新明解)

(21) 刑務所を出る(明鏡)

(22) 勉学のために都会に出る(明鏡)

(23) 旅に出る(岩波)

例文(17)～(23)は「所属していた環境を離れて別の環境・段階に移行する」という共通点が認められる。「ある場所を離れる」という移動を表す点で意味<0>と共通点が見られるので、意味<2>は意味<0>の拡張だと見ることができる。

意味<2>：

ある環境を離れて、別の環境・段階に移行する。

意味<0>と意味<2>の共通点：どちらも外へ移動する。

意味<0>と意味<2>の相違点：意味<0>は、本来は比較的小さな物理的移動。意味<2>は環境や段階のようなある程度大きな変化を指す。

意味<2>のコロケーション

・「 を出る」の に入るのは、<所属していたところ>：大学、家、会社、故郷など

・「 に出る」の に入るのは、<目的(地)>：都会、旅など

4-2-3 意味<3>

(24) 右に行けば駅に出る(岩波)

(25) 森をぬけて湖のほとりに出た(岩波)

(26) 左へ行けば会場に出る(新明解)

(27) 三步前に出る(新明解)

(28) 異議ある者は前に出よ(明鏡)

例文(24)～(26)を意味<3>の典型例と見る。意味<0>はある空間の中から外へ出るという明確に区切られた場所から外への移動であったが、意味<3>では到着点への意識が中心で、その到着点は主要

² 「大学を出る」には、「5時に大学を出る」のような用法(8)として掲げた意味<0>と、「彼は大学を出るとすぐ結婚した」のような用法(ここで(17)としてとりあげる意味<2>)がある。両者を区別するために例文(筆者による)を添えて掲げた。なお、この例文は『岩波』では本稿<2>の用法として掲げている。

³ 例(18)も(17)と同様の2用法が考えられるが、ここでは会社を退職して次の段階(独立など)に進む意。

な場所や広い空間である。例(27)(28)は「到着点へ」というより「前方へ」の移動であるが、「前方のある位置への到達」が達成されると見れば(24)～(26)と括ることができよう。

意味<3>:

移動の結果、そこに到着する。

意味<0>と意味<3>の共通点: どちらも内から外へという方向の移動。

意味<0>と意味<3>の相違点: 意味<0>は出発点を、意味<3>は到達点を問題にしている。

・意味<3>のコロケーション

「____に出る」の____に入るのは、<到着点>: 会場、大通り、広い道など; 前

4-2-4 意味<4>

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| (29) 授業に出る(岩波) | (30) 会議に出る(岩波) |
| (31) 会社に出る(新明解) | (32) 勤めに出る(明鏡) |
| (33) 結婚式に出る(明鏡) | (34) 試合に出る(明鏡) |
| (35) 人前に出る(明鏡) | (36) 先頭に出る(明鏡) |
| (37) テレビの番組に出る(新明解) | (38) 映画に出る(明鏡) |
| (39) 実業界に出る(岩波) | (40) 社会に出る(明鏡) |
| (41) 政界に出る(明鏡) | (42) 私などが出る幕じゃない(新明解) |
| (43) 選挙に出る(岩波) | (44) 仲裁を買って出る(岩波) |
| (45) ブザーが鳴ったので玄関に出た(作例) | (46) 電話に出る(岩波) |

例文(29)～(46)は、上記の意味<0>で着点への移動に関心があるケースである(その意味で意味<2>とも似ている)が、意味<4>は単に着点への到着を言うだけではなく、その着点を活動の場とし、そこで活動を行うという意味をあわせもっている。

(44)は「買って出る」と使われていて二格は出ていないが、ここでは、この文脈での「出る」が意味として(29)～(43)の「出る」と同類であると見て、この項に含めた。

(45)は、家の中でそれまでいたところから玄関に出る意である。玄関では、例えば荷物を受け取る程度のことをするだけで、活動をするとはまではいえないが、外の世界とつながることになるので、これも、以上各例と同類と見た。(46)「電話に出る」も同様の使い方と見られる。電話が柱などに固定して設置されていた時代には、電話を受けるために物理的にその場所に向かって「出る」必要があり、外の世界とつながる場所に到達して、外の世界とつながる「活動」を行うことを、「出る」と言ったものと考えられる。

意味<4>:

なんらかの活動の場に進み出て、そこで活動をする。

意味<0>と意味<4>の共通点: <4>でも、外に向かって動くという捉え方が見られる。

意味<0>と意味<4>の相違点: 意味<0>では（着点を問題にするにしても）ただの着点への移動。意味<4>では、着点でなんらかの活動をする。

意味<4>のコロケーション

・「____に出る」の____に入るのは、次のような語である。

<講義・会議・試合・イベント等>: 授業、講義、会議、ミーティング、試合、大会、オリンピック、結婚式、選挙など

<(ある)社会>: 社会、実業界、政界など

<その他>: 玄関、電話

意味<4a>:

(47) 強く出て迫る(岩波)

(48) 下手に出る(明鏡)

(49) 彼がどう出るか見ものだ(新明解)

(50) 強硬措置に出る(岩波)

(51) 思いあがった態度に出る(岩波)

これらはある態度・姿勢を持って、人(人々)に向かう活動を行うことを表すケースである。人(人々)に向かう活動を行うという点では、意味<4>と共通しているので、意味<4>の拡張とし、意味<4a>と示す。

意味<4a>:

ある態度・姿勢を持って、人(人々)に向かう活動を行う。

意味<4>と意味<4a>の共通点: 人(人々)に向かう活動を行う。

意味<4>と意味<4a>の相違点: 意味<4>は、着点でなんらかの活動を行う。意味<4a>は着点に関心なく、人(人々)に向かう活動を行うだけであり、その態度・姿勢を問題にする。

意味<4a>のコロケーション

・「____に出る」の____に入るのは、<態度・方法>: 下手、(修飾語+)態度、反撃など

4-2-5 意味<5>

(52) この商品はよく出ている(明鏡)

(53) セールでこの靴が一番出た(作例)

(54) このブランドの化粧水は特に出ている(作例)

例文(52)～(54)の「出る」は、商品が製造元や店から消費者に向かって移動する意味である。意味<0>と比べると、どちらも「製造元や店の内部から外部への移動」という意味なので、これも意味<0>の拡張だと見る事が可能である。

意味<5>:

商品が製造元や店から消費者に向かって移動する。

意味<0>と意味<5>の共通点：どちらも内部から外部へ移動する。

意味<0>と意味<5>の相違点：意味<0>は人や物などの物理的な移動。意味<5>は商品など。

「どこから」「どこへ」を表現してないが、製造者や店から消費者への移動を指している。

意味<5>のコロケーション

・「____が出る」の____に入るのは、＜商品＞：限定品、セール品など

4-2-6 意味<6>

(55) 足が線から出る(新明解)

(56) 足が土俵の外に出る(明鏡)

(57) 三日を出ないうちに(岩波)

(58) 忘年会は予算を出ない範囲で上げよう(明鏡)

(55)～(58)は中から外への移動と見られるケースであり、意味<0>に繋がるが、基準または境界をはみ出すという点に関心が向けられている。この点で意味<0>とは区別し、意味<6>とする。

意味<6>：

外への移動に際して、基準または境界をはみ出す。

意味<0>と意味<6>の共通点：どちらも外への移動。

意味<0>と意味<6>の相違点：意味<0>は内から外への移動。意味<6>は外への移動だが、一定の範囲を超えるということに関心が向けられている。

意味<6>のコロケーション

・「____を(から)出る」の____に入るのは、＜範囲/境界＞：線、土俵、予算、範囲、領域など

4-2-7 意味<7>

(59) 山の端に月が出た(明鏡)

(60) 虹が出る(明鏡)

(61) 日が出る(岩波)

(62) 風が出る(岩波)

(63) 星が出る(新明解)

(64) 火が出る(岩波)

(65) 水が出る(岩波) [湧き水などが出る⁴]

(66) 温泉が出る(岩波)

(67) 大水が出る(新明解)

(68) 芽が出る(岩波)

(69) 色が出る(新明解)

(70) つやが出る(明鏡)

例文(59)～(70)は、普段は現れていないもの・それまで現れていなかったものが出現するという意味である。「中に隠れていた物が外に現れる」という見方ができれば、意味<0>とつながる。現実

⁴ (65)「水が出る」は前掲の例(5)のような蛇口から水が出るケースではなく、「源から生じる」ケースとして『岩波』に挙げられているので、ここでは「湧き水など」と注記しておいた。

の世界では、「中に隠れていた」という場合ばかりではないが、そうでない場合でも、そのように見立てて使っているのだと見ればよからう。

意味<7>:

普段は現れていないもの・それまで現れていなかったものが出現する。

意味<0>と意味<7>の共通点: 意味<7>に「中に隠れていた物が外に現れる」という見方ができれば意味<0>とつながる。

意味<0>と意味<7>の相違点: 意味<7>は自然現象として出現するという意味。

意味<7>のコロケーション

・「 が出る」の に入るのは、<自然現象>: 月、日、太陽、虹、風、星、雲、火、温泉、湧き水など

意味<7a>:

- | | |
|---------------------|------------------------|
| (71) 涙が出る (岩波) | (72) えくぼが出る (岩波) |
| (73) 不平が顔に出る (新明解) | (74) 喜びが顔に出る (明鏡) |
| (75) やる気が出る (新明解) | (76) 元気が出る (明鏡) |
| (77) 仕事に意欲が出る (明鏡) | (78) 調子が出る (岩波) |
| (79) ご精がでますね (明鏡) | (80) スピードが出る (明鏡) |
| (81) 人気が出る (明鏡) | (82) 速力が出る (岩波) |
| (83) 貫禄が出る (明鏡) | (84) 彼は歌に表現力が出てきた (明鏡) |
| (85) 隠してもぼろが出る (明鏡) | (86) いつもの癖が出る (岩波) |
| (87) 彼の優しさが出た (作例) | (88) 中年になってお腹が出る (岩波) |

例文(71)～(88)は、前項の意味<7>に近いが、自然現象ではなく、人間に関わることである。その諸例を詳しく見ると、外面に生じるもの(涙、えくぼ)、内面にあるもの(不平、喜び、やる気など)が表に出るもの、身についてきたもの(表現力など)が表に出るもの、身についているもの(癖、優しさ)が表に出るものなどのケースがある。どれも、自然現象に擬して述べられていると見られる。意味<7>と<7a>は自然現象か人間にかかわるものかという違いはあるが、表面に表れて見えるようになるという点では共通すると見られるので、これは意味<7>の拡張だと見ることができる。

例(88)「中年になってお腹が出る」というのは、腹部が膨らんで突出することを指す。膨らんだ部分が目に現れる・見えるという面から見ると「人間にかかわるものが表面に表れる」と共通点が見られるので、例(88)も意味<7a>に分類できるであろう。

意味<7a>:

人間にかかわることが、自然現象に擬せられるように表に出る。

意味<7>と意味<7a>の共通点: どちらも何かが表面に現れて見えるようになる。

意味<7>と意味<7a>の相違点：意味<7>は自然現象で、意味<7a>は人間にかかわるもの。

意味<7a>のコロケーション

・「____が出る」の____に入るのは、次のようなもの。

<気持ち・態度>：意欲、喜び、笑顔、やる気、元気、表情、態度、自信など

<人の体から出るもの>：涙、汗、血、声など

<人間にかかわるもの>：お腹、えくぼなど

意味<7b>：

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| (89) 落し物が出た(岩波) ⁵ | (90) こんなところから指輪が出てきた(明鏡) |
| (91) 床下から小判が出た(明鏡) | (92) 真相が明るみに出る(岩波) |
| (93) お化けが出る(明鏡) | (94) 台所にゴキブリが出る(明鏡) |
| (95) 余りが三つ出る(岩波) | (96) おみくじは「吉」と出た(新明解) |
| (97) シャツが短くておなかが出る(岩波) | (98) 五月号が出る(岩波) |
| (99) 強風注意報が出る(岩波) | (100) 入り口に看板が出ている(明鏡) |
| (101) 記述式の問題が出る(明鏡) | (102) なかなか結論が出ない(新明解) |
| (103) A社から新製品が出る(明鏡) | (104) 掲示板に夏祭りの案内が出る(明鏡) |
| (105) 住民から苦情が出る(明鏡) | (106) 最高裁の判決が出る(明鏡) |
| (107) 屋台が出る(明鏡) | (108) 名品がオークションに出る(明鏡) |
| (109) お暇が出る(岩波) | (110) 救急車が出る(明鏡) |
| (111) 捜索隊が出て救助に当たる(明鏡) | (112) 多数のけが人が出た(明鏡) |
| (113) 近所で葬式が出た(明鏡) | (114) 組織から裏切り者が出る(明鏡) |
| (115) ここから良質の木材が出る(明鏡) | (116) この地方から茶が出る(岩波) |
| (117) 鉄が出る山(新明解) | (118) この街から有名な政治家が出た(作例) |

例文(89)～(118)は、いずれも出現・発生だが、意味<7>のような自然現象や<7a>のようなそれに擬せられる現象ではない。その諸例を詳しく見ると、(89)～(97)は、ものについて、表に現れるようになったという用法である。ただし、自然現象ではない。(98)～(109)は、ものについて人為的に行われたことで出現するもの。(110)～(114)は、人がかかわることについての出現・発生である。いずれも、見えなかったものが見えるようになる、現れるという面では意味<7>と共通点が見られるので、意味<7b>を意味<7>の拡張だと見ることができる。(115)～(118)は、産出という意味であるが、その産出がよく知られている場合はこういう言い方をしない、例えば、「×新潟県からはコシヒカリが出る」。その産出があまり一般的には知られていない場合に「発生」的に捉えて言う

⁵ 見つかる意。

のだと見られ、そのように見ると、他の諸例につながるといえる。

意味<7b>:

見えなかったものが見えるようになる/現れていなかったものが現れるようになる。

意味<7>と意味<7b>の共通点: どちらも物が出現する。

意味<7>と意味<7b>の相違点: <7>は自然現象、<7b>は上述のようにいくつかの場合があるが、いずれも自然現象ではない。

意味<7b>のコロケーション

・「____が出る」の____に入る主な場合は、次のようなもの。

<隠れていたもの>: 落とし物、真相、お化け、ゴキブリなど

<人為的な行為により表に出るもの>: 看板、ニュース、お知らせなど

意味<7c>:

(119) 昼食にそばが出る(明鏡)

(120) 全員に食事が出る(明鏡)

(121) おしぼりが出る(明鏡)

(122) 受賞者には賞金が出る(明鏡)

(123) ボーナスが出る(明鏡)

(124) 給料が出る(岩波)

(125) 監督から打者にサインが出る(明鏡)

例文(119)～(125)は、人によって提供されることで現れるというケースである。人が「出す」という行為を行ったが、出した人を言わないで、ものを主語として自動詞の「出る」を用いたものである。受け取るほうにとっては、提示・現れるという意味が生じるので、意味<7>の「出現・発生」と共通点が見られるが、人による提供ということで区別することにした。

意味<7c>:

人の行為によって提供され、表に現れる。

意味<7>と意味<7c>の共通点: どちらも何かの出現。

意味<7>と意味<7c>の相違点: 意味<7>は自然発生。意味<7c>は人の提供によるもの。

意味<7c>のコロケーション

・「____が出る」の____に入るのは、<人によって提供されるもの>: 食事、給料、ボーナスなど

意味<7d>:

(126) 論語に出ている故事(新明解)

(127) 新聞に出る(岩波)

(128) 学会誌に論文が出る(作例)

これらの例も出現・発生だが、公に明らかにされ、社会的に現れることを意味している。

意味<7d>:

新聞・雑誌などが公に明らかにされ、社会的に現れる。

意味<7>と意味<7d>の共通点: どちらも何かが出現・発生。

意味<7>と意味<7d>の相違点: 意味<7d>は公に認知されるという意味が強い。

意味<7d>のコロケーション

・「____が出る」の____に入るのは、<公に明らかにされたもの>: 新聞、学会誌など

4-3 「出る」の各意味の関係

以上をまとめると、「出る」には、プロトタイプの意味を含めて大きく8つの意味が認定される。
以下にその関係を図示しておく。

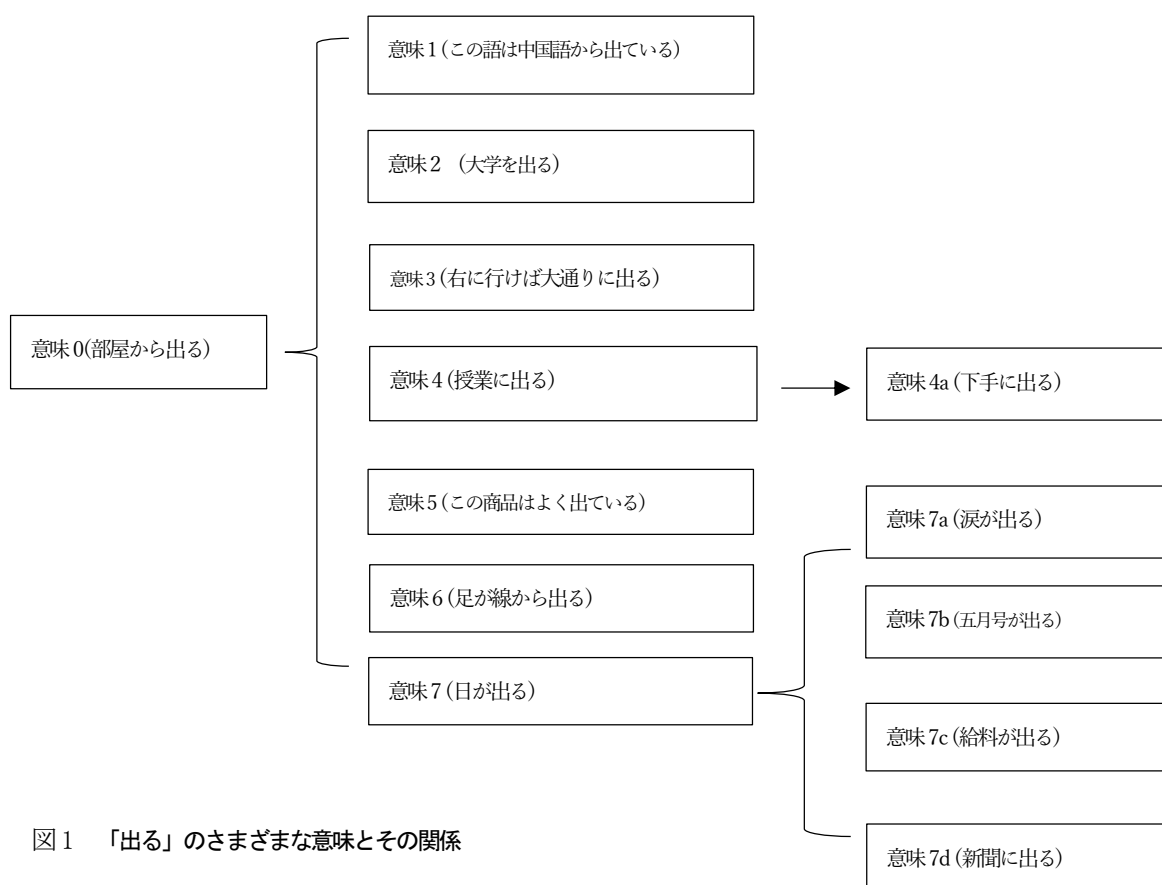


図1 「出る」のさまざまな意味とその関係

5. まとめ

本稿では、初級段階の学習者にとって難しい語の一つである多義動詞「出る」について、(1)プロトタイプの意味は何か、(2)複数の意味の認定をどう立てるのがよいか、(3)複数の意味の相互関係をどう捉えるのがよいか、という3つの課題を設定し、考察を行った。

その結果、以下のことが明らかになった。(1)「出る」のプロトタイプの意味は「区切られた空間・領域の中・内から外へ移動する」と見るのがよい。(2)「出る」の意味はプロトタイプを含めて大きく8つ立てられた。(3)意味用法の相互関係は図1で示した通り、意味<0>から意味<1>・意味<2>・意味<3>・意味<4>・意味<5>・意味<5>・意味<7>が拡張されると考えられる。さらに、意味<4>から<4a>、意味<7>から意味<7a><7b><7c><7d>が拡張される⁶。

これらをごく簡単にまとめると、「内から外への移動」が基本義で、「移動の出発点」に目を向けたもの、「移動の到着点」に目を向けたもの、および「出現・発生」に目を向けたものなどが見られる。

参考文献

榎山洋介(2001)「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻」『認知言語学論考』1, 29-58.

森山新(2012)『日本語多義語学習辞典 動詞編』アルク.

(サイト)

国立国語研究所(2022 更新版)『基本動詞ハンドブック』オンライン <http://verbhandbook.ninjal.ac.jp/>

調査対象とした辞書

北原保雄 編 (2021) 『明鏡国語辞典 第三版』大修館書店.

西尾実・岩淵悦太郎他 編 (2019) 『岩波国語辞典 第8版』岩波書店.

山田忠雄・柴田武他 編 (2017) 『新明解国語辞典 第八版』三省堂.

—国学院大学大学院博士後期課程—

⁶ 以上で考えた意味の派生・拡張は、日本語学習者の理解に資するようにという観点から考えたもので、日本語史における意味の派生・拡張の仕方と完全に一致しているとは限らない。